

生 命 倫 理 3

【単位数:0.5単位, 授業7コマ】

1 科目責任者

川崎 優 講師(哲学)

2 教育目標

(1) ねらい(I-1-b, I-4-b)

- ① コンピテンスである「プロフェッショナリズム」を修得するために、臨床の場で医療従事者に求められる「誠実、正直の態度」、並びに「4原則以外の倫理原則」の具体的な活用方法について学ぶ。
- ② 人生の最終段階における医療(エンド・オブ・ライフ・ケア)をとりまく倫理的問題について、倫理学の考え方に依拠し、分析した上で、自分の考えを説明することができる。

(2) 学修目標

- ① 倫理がなぜ人間に必要なのかを説明できる。
- ② 医療従事者に求められる態度として、特に誠実と正直の態度について具体的に説明できる。
- ③ 生命倫理の諸問題をめぐる多様な価値観を説明できる。
- ④ 4原則以外の観点から具体的な事例について議論できる。
- ⑤ 生命倫理の諸問題に関する実践的な知識を修得する。
- ⑥ 臨床の場において、どのような倫理的問題が生じているか具体的に説明できる。
- ⑦ 生命倫理の諸問題に対する自分の考えを論理的に説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
レポート	○	80%	講義の最終日に課す期末レポートの内容を評価する。
小レポート	○	20%	講義内で数回課す小レポートの内容を評価する。
態度	○	—	態度不良の場合は、総合成績から10点を限度に減点をする。

出席： 単位を修得するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

課題・レポートを課す。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

小レポートについては講義内で解説する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
考えよう！生と死のこと—基礎から学ぶ生命倫理と死生学	波多江伸子, 寺田篤史, 脇 崇晴	木星舎	生命倫理の諸問題について端的にわかりやすく概説されている。
入門・医療倫理 I〔改訂版〕	赤林 朗〔編〕	勁草書房	生命倫理の諸問題について、より具体的な国内外の現状や哲学的議論が詳説されている。
看護のための生命倫理〔改定三版〕	小林亜津子	ナカニシヤ出版	タイトルに「看護のための」と記されているが、専門問わずおすすめの内容。
患者の意思決定にどう関わるか？—ロジックの統合と実践のための技法	尾藤誠司	医学書院	臨床の場で直面しうる問題について、理論編と実践編に分けてわかりやすくまとめられている。

6 準備学習（予習・復習）

AIDLE-Kに講義資料が挙げられている場合には事前に内容を確認すること。また講義後に内容を再確認し、次回以降の講義に臨むこと(1コマあたり約1時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中にグループワークや講師との双方向性応答などのアクティブ・ラーニングも導入する。

(2) 講義の内容

生命倫理に関する発展的・実践的な内容について学ぶ。これまで学んだ基本的な原則を踏まえて、より複雑な倫理理論とその応用について学ぶ。具体的な事例の分析やロールプレイをとおして、より実践的な倫理的思考力を養う。